

---

# LOVE LETTER

ル・ルー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

LOVE LETTER

### 【Nコード】

N8729W

### 【作者名】

ル・ルー

### 【あらすじ】

ここは詩の置き場です。

日々生まれるわたしの欠片。

## 空が一番青くなったら

空が一番青くなったら

君に手紙を書きます

風に揺れる君への気持ちを  
白い便箋に込めておきます

君が歌を作ったら

世界に雨が降るでしょう

仔猫を抱き上げた腕に

行き場のない忘れ傘の上にも

夜に月がこぼれたら

グラスでこっそり受け止めて

朝が来るその前に

手に手を取って逃げ出して

すべてのことが

ただひとつを示す

君が呼んでいる

私はまだ眠いの

最後の花びらが散ったら

風の生まれる丘で会いましょう  
だからそれまではもう少しだけ

空を眺めています

## 赤とんぼ

少しさむい季節の隙間

風はいつもらせんを奏でる

薄まった空の向こうから

呼ばれた気がして

赤とんぼ

明日をにらむ僕の目に

いつか昔に見た景色

ふらりと現われ消えてゆく

忘れかけてた

赤とんぼ

夕暮れを待つ坂の途中

近くて遠い町の上

赤く染まった誰かの声が

こわいと言った

赤とんぼ

家も名前もわからない

君は一体誰だろう

次の風が吹くまでの間は

一緒にいようよ

赤とんぼ

少しさむい

いつか昔の

夕暮れを待つ  
少しこわい  
一緒にいてよ

君に呼ばれた気がして

## 波の音

どうやら私も見たらしい  
でも覚えてないから寂しかった  
懐かしいのはただ一色の色と  
海のリズム それに君の影  
それはさながら起き抜けの夢のように  
刹那の出来事だけれど

忘れてしまった嘘に苦しまないで  
持ち物は知らない間に全て失くした  
他の人の傷なんて残さないで  
抱き締めてあげるから 私が  
薄まる空

あのと君は何と言った？

揺れる

揺れる

風にあの娘の髪

心はふさがって

はがれて

忙しい

誰もが憧れた

あのと君は何と言った？

波の音で聞こえない

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8729w/>

---

LOVE LETTER

2011年11月15日00時26分発行